

東新町・小茂根地域における取組について

(令和7年10月)

板橋区 都市整備部 都市計画課

東新町・小茂根地域交通検討会の目的と運営ルールについて

(1) 開催期間と進め方

- ・令和7年5月から令和8年3月末までの間に3回開催する予定です。
- ・第3回目の交通検討会は令和8年2月頃に開催します。

(2) 検討会の目的

- ・地域の公共交通（例：池55バス等）の課題について共に考え、今後の利用や活用の方法を検討します。
- ・地域の実情に合わせたバスの空白時間帯の補い方（公共交通の補完）について検討します。

(3) 情報公開と住民参加について

- ・会議の記録や皆さんの意見を要約し、「検討会ニュース」として配布します。
- ・会議の開催内容は、板橋区ホームページでも公開します。
- ・ご希望があれば傍聴も可能です。（事前にお伝えください。）

本日の次第（案）

1 前回の振り返り

- ・ 第1回地域交通検討会の振り返り。

2 [議題1]新たな乗り物の走行について

- ・ 既存のバスと重ならない時間帯や走行ルートを考える。
- ・ （参考）他自治体の事例、検討内容イメージなど

3 [議題2]地域資源の活用について

- ・ 福祉園・介護施設・学校の送迎バスの空き時間活用の可能性について考える。
- ・ 自家用有償旅客運送（公共ライドシェアなど）について考える。

4 その他

- ・ 次回の予定について。

1 前回の振り返り

(1) 現状をみんなで確認できた

- ・路線バスの運行が平日朝夕のみで、平日日中や帰りの便が以前に比べて少なく、空白の時間帯がある。
- ・路線バスについては、運転手不足で今後も減便の可能性がある。

(2) 地域の声が整理できた

- ・ワゴン車に「相乗りも仕方ない」など前向きな意見がでてきた。
- ・「池55」系統は病院への通院、大山商店街や池袋への買い物で利用している。
- ・上板橋駅・小竹向原駅・ときわ台駅・池袋駅をつなげる交通手段が欲しい。

(3) 次につながる課題が見えた

- ・スマホ予約に不安のある高齢者への対応が必要である。
- ・福祉送迎車など地域資源の活用の可能性を考える。

(4) 今後につなぐ視点を持てた

- ・「無理のない移動手段を一緒に考える」という共通のスタートラインに立てた。

1 前回の振り返り

(5) 東新町・小茂根地域が抱える課題と対応策の検討

社会・経済の動向

路線バス運転手の減少



路線バス減便・廃止



日常生活への影響

公共交通が利用できない

住民の外出機会の減少

高齢者の増加



高齢者の身体機能の低下

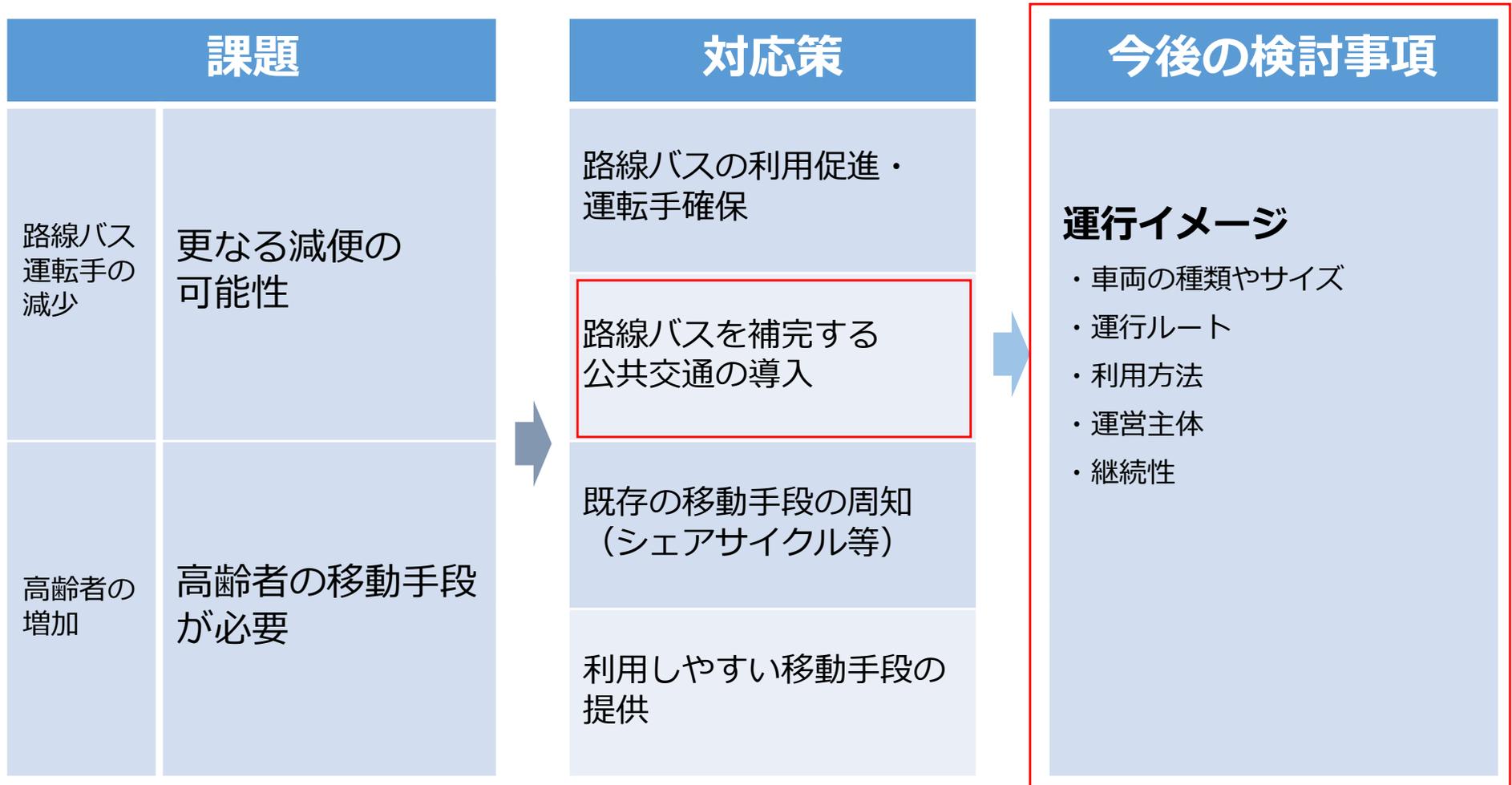
移動困難者の増加



地域の課題として対応策を検討

1 前回の振り返り

(5) 東新町・小茂根地域が抱える課題と対応策の検討



1 前回の振り返り

(6) 地域として取り組めること・考える必要性のあること

○路線バスの運転手確保

- ・路線バス運転手の募集（地域からの発掘をしつつ路線廃止を防ぐ）

○路線バスの利用促進、既存の移動手段の周知

- ・路線バス利用、シルバーパス活用
- ・シェアサイクル活用

○地域公共交通の役割分担の整理

- ・既存路線バス = 地域交通の基幹としての役割
- ・小型ワゴン（新たな乗り物） = 狭幅員道路における高齢者を中心とした日中の移動を補完
- ・地域資源車両活用 = 地域資源を活用した区間や時間帯を限定的した運行

➡周辺のみちづくり等に伴う交通環境の変化に応じた小型ワゴンやデマンド交通の段階的導入

○利用しやすい移動手段の提供

- ・スマホ操作に不慣れな方には電話窓口で予約対応 等

○地域で取り組む必要性

- ・バス事業者や行政だけで今までどおりの公共交通を維持することは困難

議題1 新たな乗り物の走行について

(1) 新たな交通手段を公共交通として位置付ける。

モビリティ手段	役割	補完されるニーズ	制約条件・対応策
路線バス (池55) (光02) (赤31)	複数区をまたがる 広域的な移動手段	通勤・通学・通院 などの主要交通動線	<ul style="list-style-type: none"> ○住宅地の道路幅員不足 →ワゴン車で運行 ○大型二種免許取得者の不足 →普通免許で運転できる車両 →第一種免許+講習修了のドライバー →住民からドライバー募集 ○既存路線バスと競合しない →起点、終点、経路の検討
減便等による移動手段の不足が地域の課題となる ↓ 新たな交通手段 (今回検討する内容)	路線バス空白地域・ 空白時間の補完	路線バスでは カバーできない 近距離や時間帯の移動	
シェアサイクル (電動サイクル)	ラストワンマイル 坂道の回避など 機動性補完	自由度の高い 短距離移動、 混雑・待機時間の回避	



ワゴン車幅員
約1.9m

乗車定員10人以下：普通免許で運転可能

自家用有償旅客運送における運転者：
第二種免許を有するか、第一種免許を有し
国土交通大臣認定講習を修了するなどの要件
を満たすことが必要である。

議題1 新たな乗り物の走行について

(2) 既存のバスと重ならない時間帯や走行ルートを考える。

⇒第二部で班ごとに意見交換

池55系統 小茂根五丁目バス停の時刻表の変化

2017年まで1日22本 (40分毎・イメージ)		2023年まで1日11本 (80分毎・イメージ)		現在1日6本		
時刻	平日・土日祝	時刻	平日・土日祝	時刻	平日	土日祝
5		5		5		
6	●	6	●	6		
7	● ●	7		7	15	
8	● ●	8	●	8	40	
9	● ●	9	●	9	58	28
10	●	10	●	10		54
11	● ●	11	●	11		
12	●	12		12		06
13	●	13	●	13		
14	● ●	14	●	14		10
15	●	15	●	15	53	30
16	●	16		16		50
17	● ●	17	●	17	13	
18	● ●	18	●	18	28	
19	●	19	●	19		
20	●	20		20		
21		21		21		

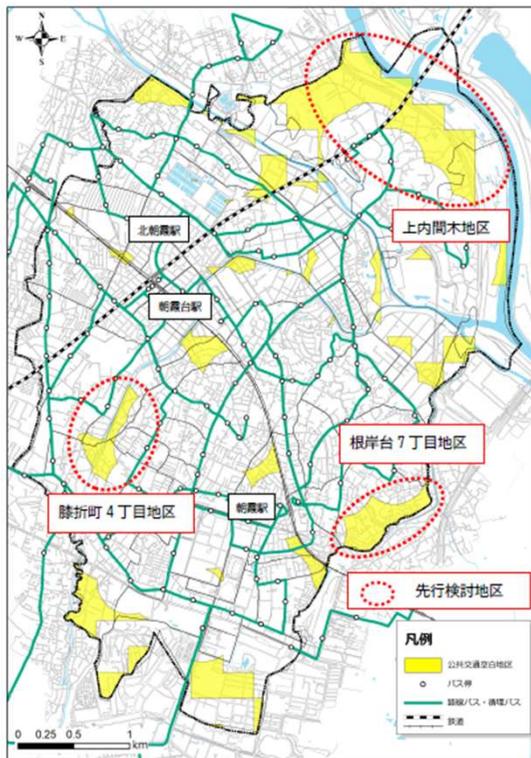
利用が見込まれる施設と既存バス経路



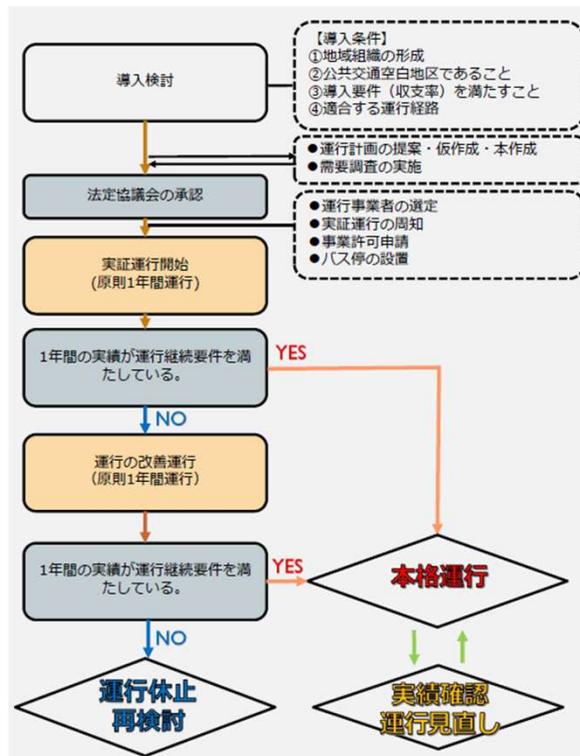
議題1 新たな乗り物の走行について

(参考)

○住民も参加して交通手段を計画・導入した自治体の事例（朝霞市）



朝霞市の公共交通空白地区
(朝霞市地域公共交通計画)



わくわくワゴン導入フロー
(朝霞市「公共交通空白地区への導入ガイドライン」)

- 朝霞市は導入のガイドラインを作成した。
- 運行計画作成段階で各町内会から2~3名が参加する地域組織を立ち上げ、ルート検討等を進めた。
- 高齢者や子連れの利用が多い。
- 利用状況や地元の意見に基づいてルートの見直しを行っている。



取組の概念図

(国土交通省「関東管内における地域住民が主体となって地域交通を確保している取組 事例集」)

課題

- ・道路幅員が狭く、小型バスが入れないため、交通空白地区となっている箇所が存在する。
- ・当該地域からはバスを通してほしいとの要望があった。

対応

- ・タクシー事業者に委託し、幅員が狭くても走行可能なワゴン型車両（わくわくワゴン）による実証運行を実施中。

「わくわくワゴン」

運行方法：地区と最寄りの鉄道駅を結ぶ
定時定路線
運行頻度：週3日、1日9~14便（片道）
運賃：大人200円 小児100円
車両：ハイエース(最大9人乗車可能)
運行：タクシー事業者に委託
※現在は実証運行中(1年目)

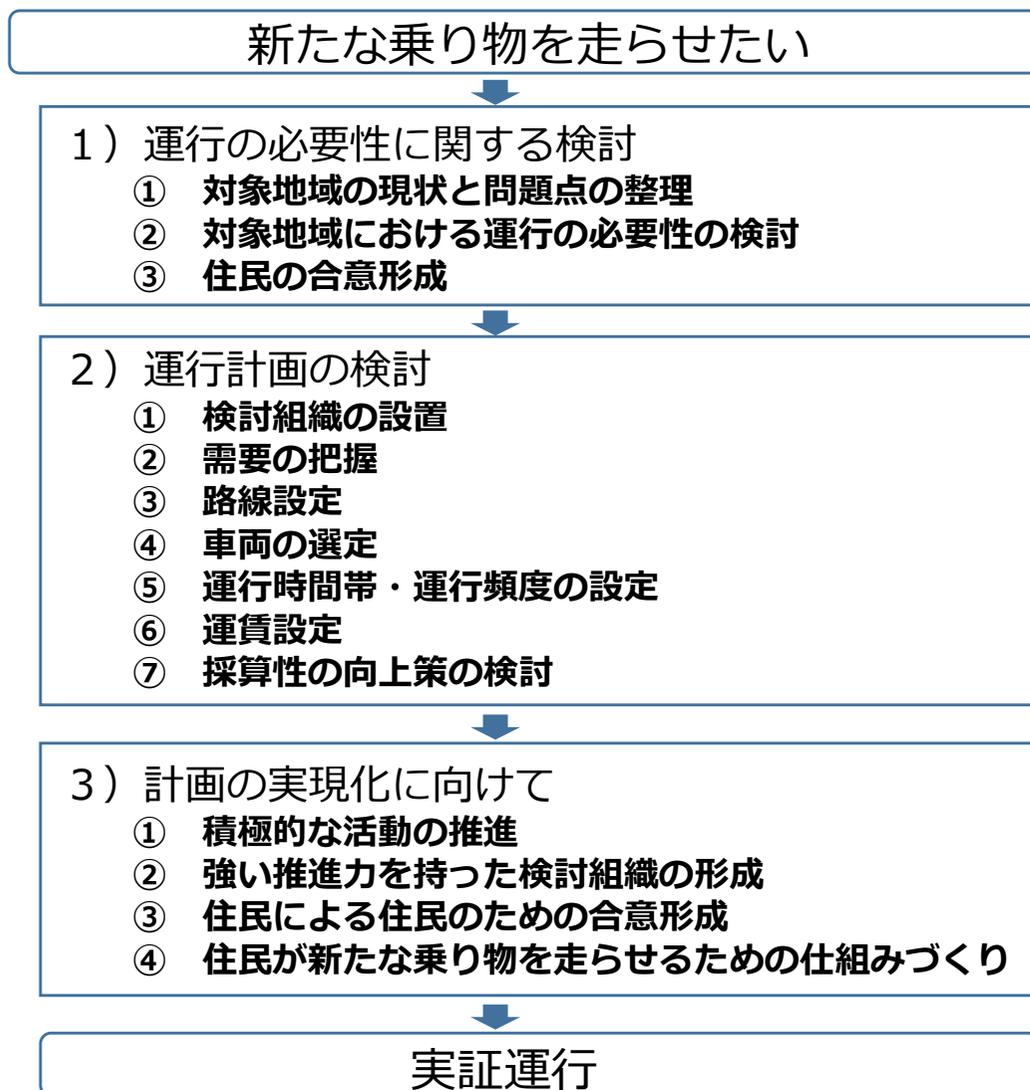


わくわくワゴン車両
(朝霞市ホームページ)

議題1 新たな乗り物の走行について

(参考)

○新たな乗り物に関する検討内容のイメージ



議題1 新たな乗り物の走行について

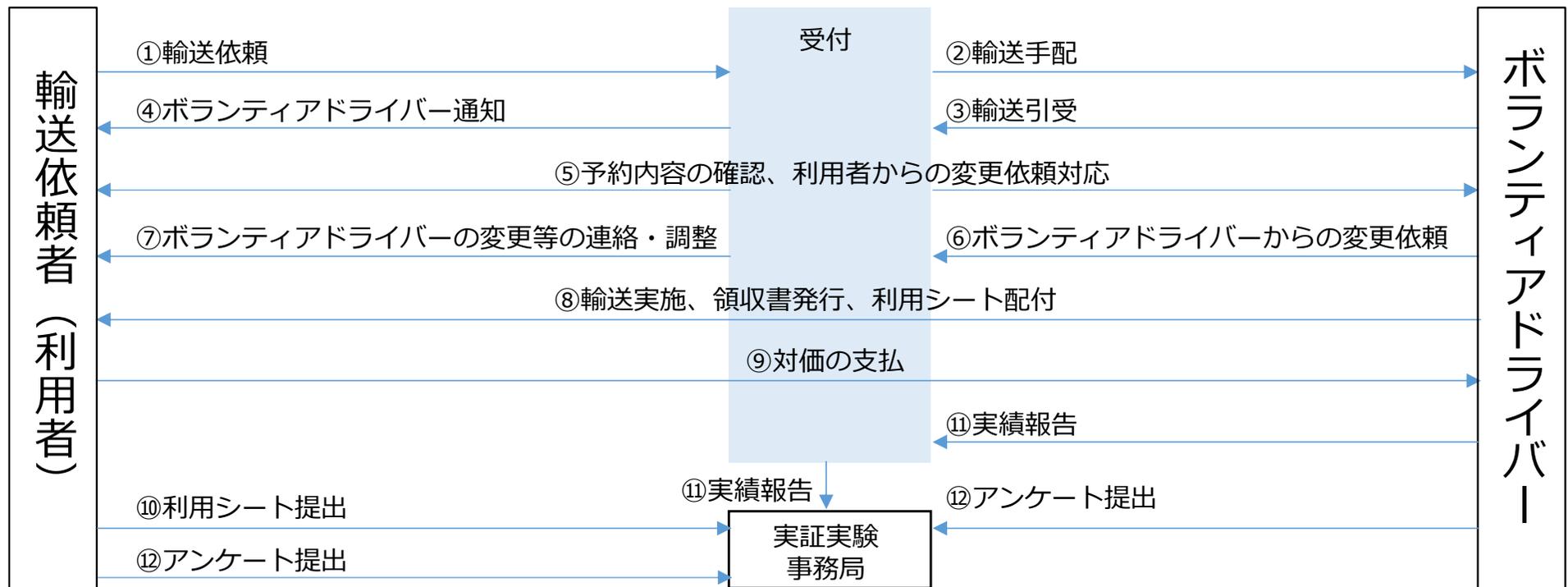
(参考)

○車両の運行主体になれる組織は何か。

➡施設送迎車両での運行が難しい場合、運行主体として可能性がある存在は？

- ・タクシー会社などの交通事業者
- ・乗車予約システム開発会社
- ・地域住民がNPO法人を立ち上げて運行

◆デマンド交通（実証実験）における運行管理体制の例

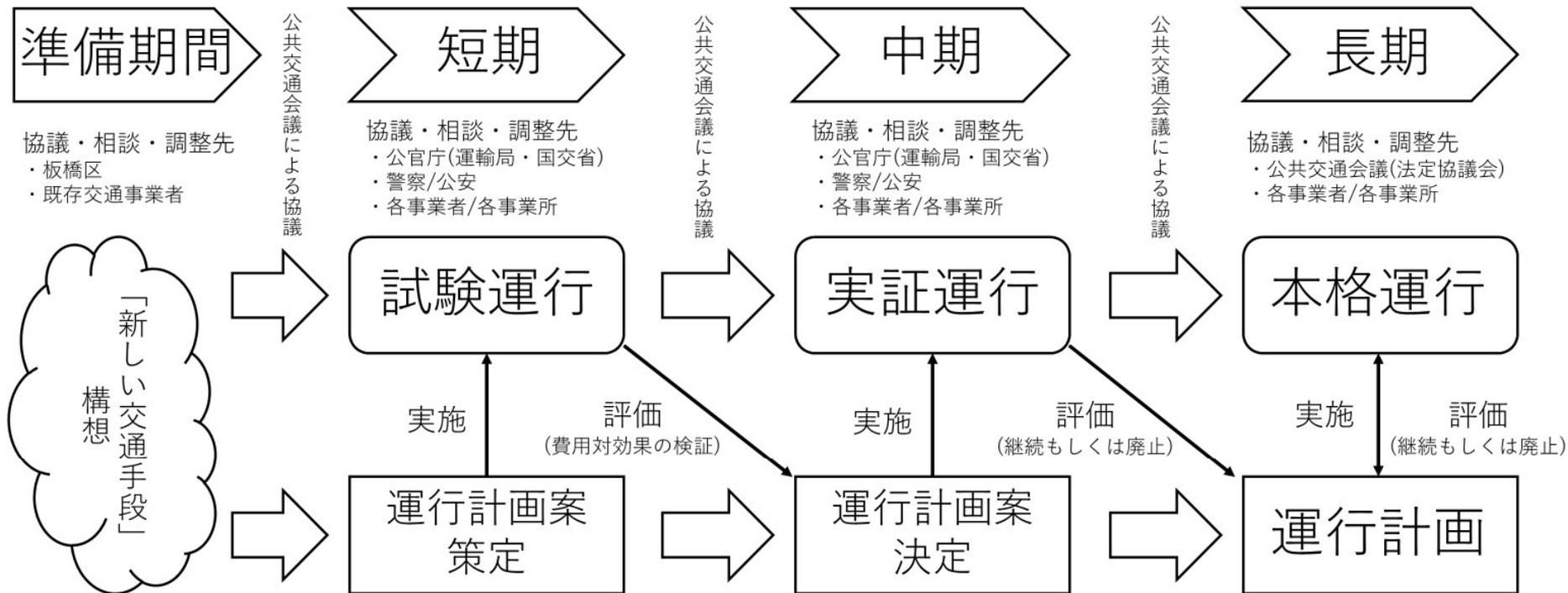


(土木学会「バスサービスハンドブック 改定版」に加筆)

議題1 新たな乗り物の走行について

(参考)

○準備から本格運行までのプロセスの例



- ・交通手段導入に関して住民による検証

運営組織の設立

- ・需要調査に基づき、試験運行計画案を作成
- ・試験運行計画作成
 - 実施体制/スケジュール・内容の検討
 - 経路設定・運行頻度・車両の種類選定
 - 事故時の対応マニュアルの検討
- ・運行計画の評価方法案策定
- ・試験運行計画に基づき試験運行を実施

運行主体の選定

- ・運行スケジュール協議

運営組織による実証運行の実施

- ・試験運行の評価・判断・見直し
 - 評価方法案決定
- ・試験運行の評価を踏まえて運行計画を決定
 - 実施体制・内容・実施スケジュール修正
 - 経路設定・運行頻度・車両の種類修正
- ・地域への周知活動
- ・運行計画に基づき実証運行の実施

運行主体を決定

- ・運行スケジュール決定

運営組織を主体とする運行管理

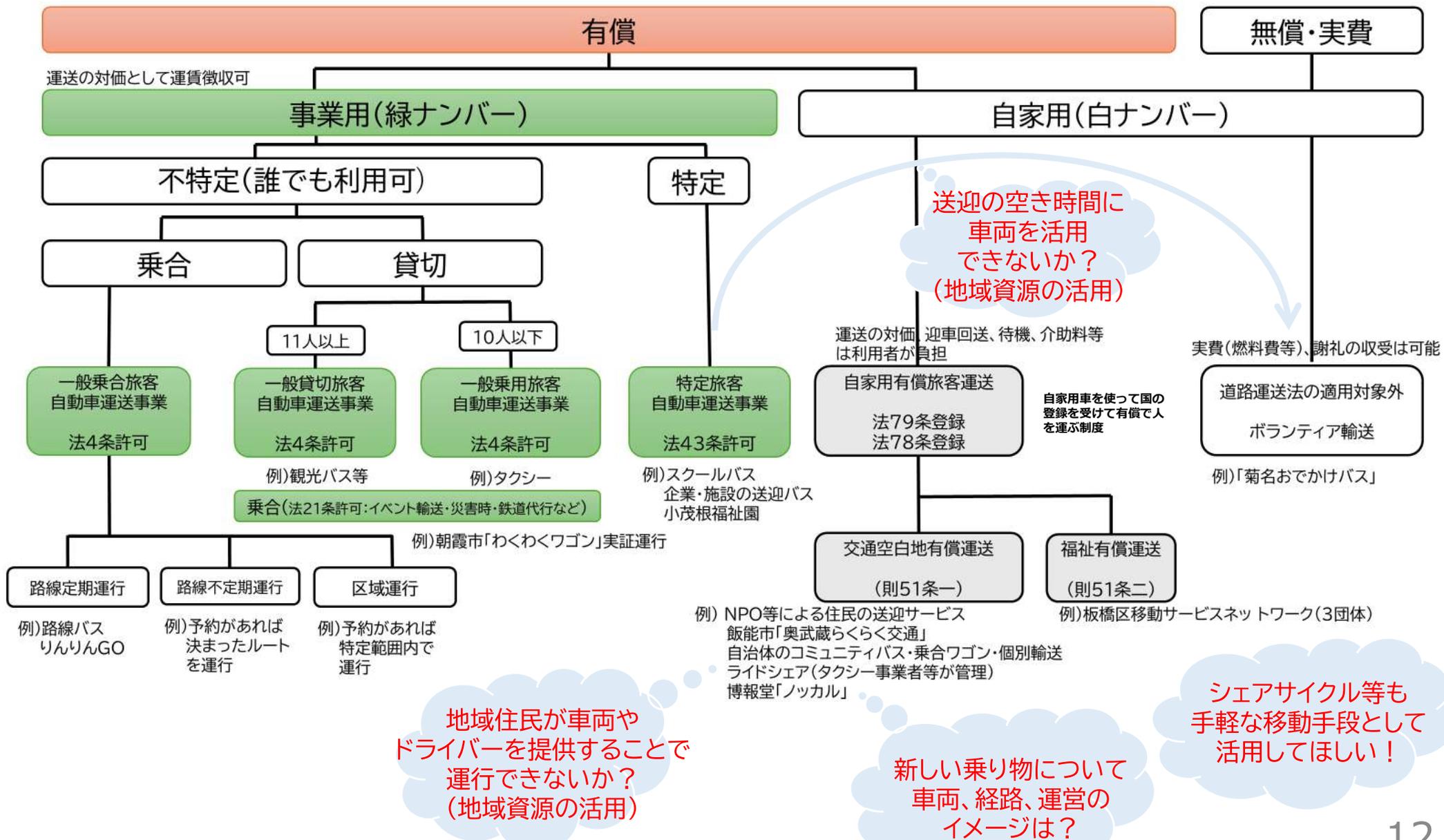
- ・評価方法による実証運行の振り返り
 - 評価・判断・見直し(継続・改善・廃止)
- ・運行計画に基づく**本格運行**
- ・地域住民の積極的利用と支援

運行主体による本格運行

- ・運行スケジュール評価・判断・見直し

議題2 地域資源の活用

(1) 地域で運行される公共交通の概略



議題2 地域資源の活用

(2) 地域資源の活用例

①福祉園バス・介護施設車両の活用

- ・福祉園の利用者の送迎は運行事業者（特定旅客自動車運送事業）に委託しており、現状の契約では一般の地域住民を乗せて運行することは許可外の運行となる。

乗車対象：「施設利用者」等の福祉サービス提供対象者に限定

利用目的：通所等の、福祉サービス提供に資する移送

営業許可：地域の交通空白の重点目的ではない

- ・現在、地域内の8施設に空き時間を活用した移動支援への協力依頼の案内を送付し、今後、ヒアリング等の実施を予定している。

例：医療法人・社会福祉法人による移送サービス（飯能市）

②スクールバスの活用

- ➡ 混乗：休校日は運行がない、保護者の賛同が必要などの課題がある。
- ➡ 空き時間：大学のバスは空き時間がない。

例：スクールバスの混乗（乗合ワゴン）（飯能市）

③自家用車でのお出かけに住民が同乗する仕組み

- ➡ ライドシェア：交通事業者等が運行管理し、自家用車を持つ地元の住民が運転手として登録するシステムによる移送サービス。

例：NPO法人奥武蔵グリーンリゾート「奥武蔵らくらく交通」（飯能市）
博報堂「ノッカル」（富山県朝日町他）

議題2 地域資源の活用

(3) 自家用有償旅客運送（公共ライドシェア）の事例

マイカー公共交通「ノッカル」のイメージ

ドライバー

①定期的な外出予定を時刻表へ

②便ごとに運行可否を設定

③予約が入った便のみ運行

今週は行けるけど、来週はちょっと...

自家用車で出かける時に近所の人も便乗してね。

行きたいところがあるけれども誰か乗せてくれるかな。

利用者

①会員登録

②乗車予約

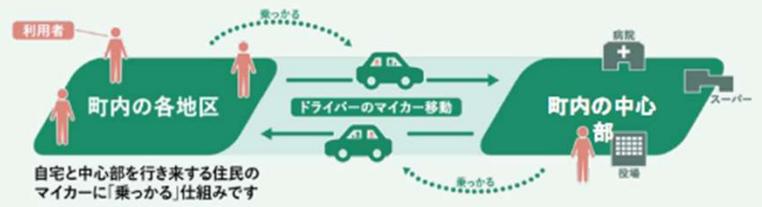
※電話またはLINE

③乗車/運賃支払い

サービス概要

”公共ライドシェア”（自治体ライドシェア/マイカー公共交通）は、自治体が主導し、移動に困っている方々の日常をラクに、暮らしをもっと便利に、地域をもっと元気にすることをめざしています。

地域の実情や声に応じて柔軟に運行し、これまでのバスやタクシーが届きにくかった場所や時間にも対応。高齢者や子育て世帯など、外出が大変な人たちの移動を助け、地域全体で支え続けられる、これからの公共交通のカチです。



ポイント①
需要に応じて運行できる柔軟性

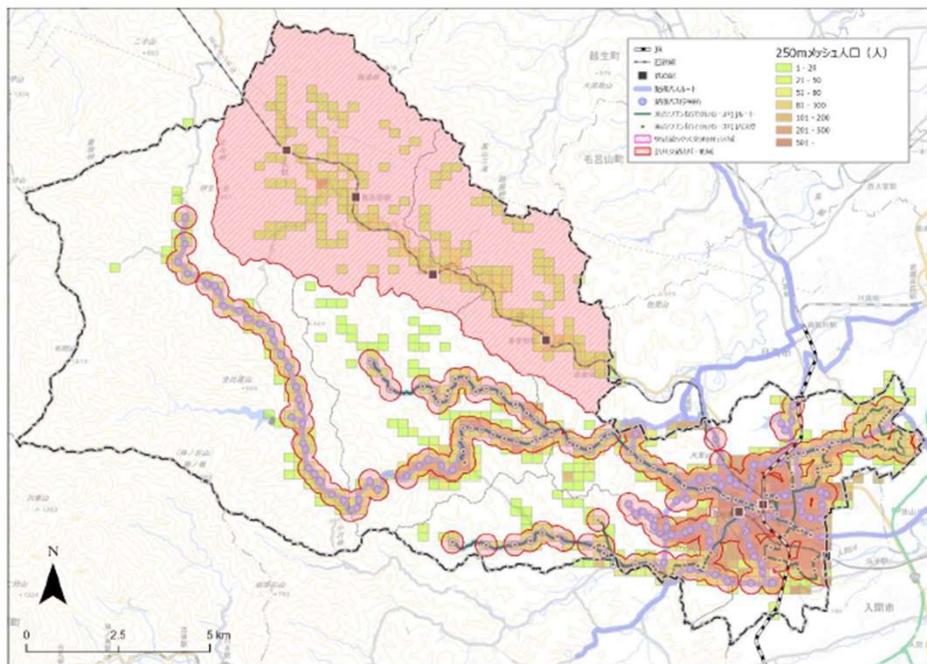
ポイント②
地域住民・民間・自治体の連携で、持続可能な運用体制

ポイント③
電話だけでなくLINEアプリなどで利用者の利便性も確保

※弊社サービス「マイカー公共交通・ノッカル」を参考に作成しております。

議題2 地域資源の活用

(4) 各種の地域資源を活用して公共交通を整備している自治体の事例（飯能市）



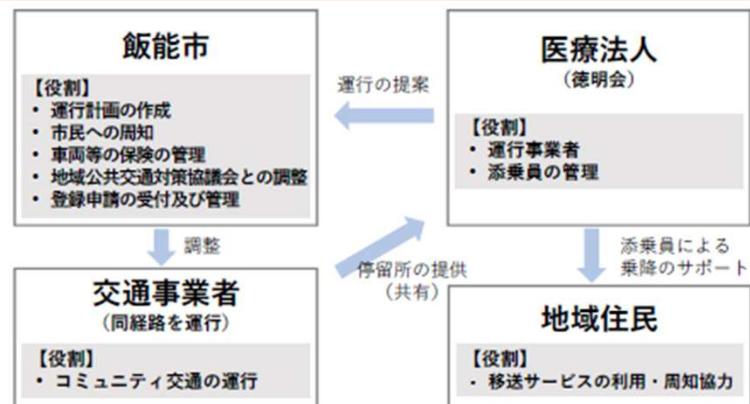
飯能市の公共交通カバー地域
(飯能市「第2次飯能市地域公共交通計画」)

【飯能市で路線バス以外に取り組んでいる移動手段】

- 「おでかけむーま号」：乗合ワゴン（一部大型バス）
- 「奥武蔵らくらく交通」：地域のNPO法人が運営
- 医療法人・社会福祉法人の移送サービス（実証運行中）
：地域の医療法人・社会福祉法人が社会貢献活動として運行
- スクールバス混乗：奥武蔵小学校のスクールバスに児童以外の地域住民の方々も乗車できる制度
(現在はスクールバスに空きが無く休止中)

【地域資源の活用】

- 「奥武蔵らくらく交通」
→地域住民のドライバーが自家用車を使って運送を行っている。
→対象地域の住民の移動手段確保を目的としているが、観光客の利用もある。
- 医療法人・社会福祉法人の移送サービス
→医療法人・社会福祉法人が車両・運転手を提供している。
→路線バスや「おでかけむーま号」を補完する経路を無償で運行する。



移送サービスの取組の概念図
(国土交通省「関東管内における地域住民が主体となって地域交通を確保している取組 事例集」)

1 前回の振り返り

第1回検討会ニュース LOGOフォームアンケート結果

目的：対象地域にお住まいの方を対象に地域の交通手段について一緒に考える。

回答方法：二次元コードからスマートフォンによる回答 **回答者数：**14名

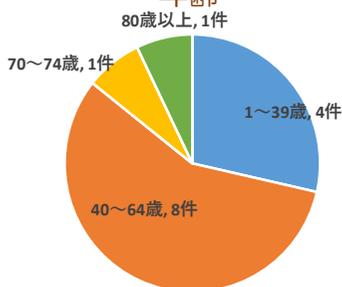
主な質問項目：日常のバス利用目的、平日日中の外出手段の困りごと
乗ってみたい公共交通、相乗り利用意向、シェアサイクル利用意向 等

〔回答者の属性〕

性別



年齢

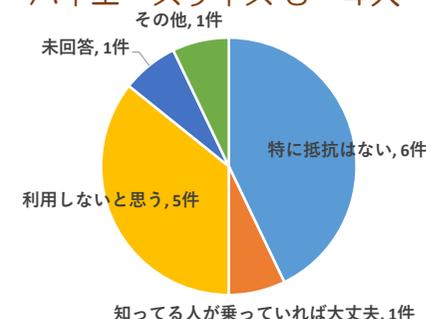


〔相乗り利用意向〕

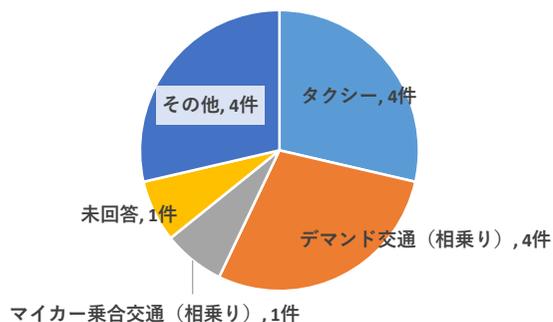
タクシーサイズ 2人程度



ハイエースサイズ 3~4人



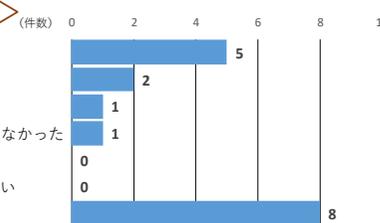
〔この地域にあいそうな乗り物〕



〔シェアサイクル利用意向〕

どのように感じているか<複数選択可>

- 地域にあるのを知っている
- 興味はあるが使ったことはない
- 使ったことがあり、便利だった
- 使ったことはあるが、もう一回使いたいとは思わなかった
- スマホでの登録が難しそう
- 使い方を教えてくれる機会があれば、使ってみたい
- その他



使ってみたい条件<複数選択可>

- シェアサイクルの使い方教室があれば
- 自宅の近くにサイクルポートがあれば
- 安全に乗れる道路があれば
- ヘルメットもレンタルできれば
- 速度がすぎない、高齢者でも乗りやすい自転車があれば
- スマホを使わずに乗れる仕組みがあれば
- 未回答
- その他

